

# 平成 26 年度 松島湾アマモ植栽活動

特定非営利活動法人 環境生態工学研究所

状況写真	解説
	<p>活動実施年月日：平成 26 年 5 月 3 日 参加者：約 20 名</p> <p>桂島の近くにアマモの生息地があります。そこから、関係者の理解を得て、植栽用の株を少しおすそ分けしてもらいます。</p>
	<p>ダイバーがスコップでアマモの株を採取しています。干潮時の作業ですが、潜水装備が必要です</p>
	<p>採取したアマモは、特に地下茎と根の部分を傷つけないように大事に扱います。</p> <p>船の後ろで作業をされているのは漁協の方です。特殊な道具（カキばさみ）を使って、アマモ株の採取を手伝っていただきました。</p>

状況写真

解説



採取したアマモです。草丈は 60～80cm 程度の生育良好な個体です。



全部で 300 株程度の採取をしました。



陸揚げしたアマモを竹串に結びつけます。今回は子供（幼稚園児～中学生）を中心に作業を実施してもらいました。

## 状況写真

## 解説



人が集まって作業をしていると、通りすがりの人が興味をもち集まってきます。通りすがりの方にも本活動の内容を伝えることができました。



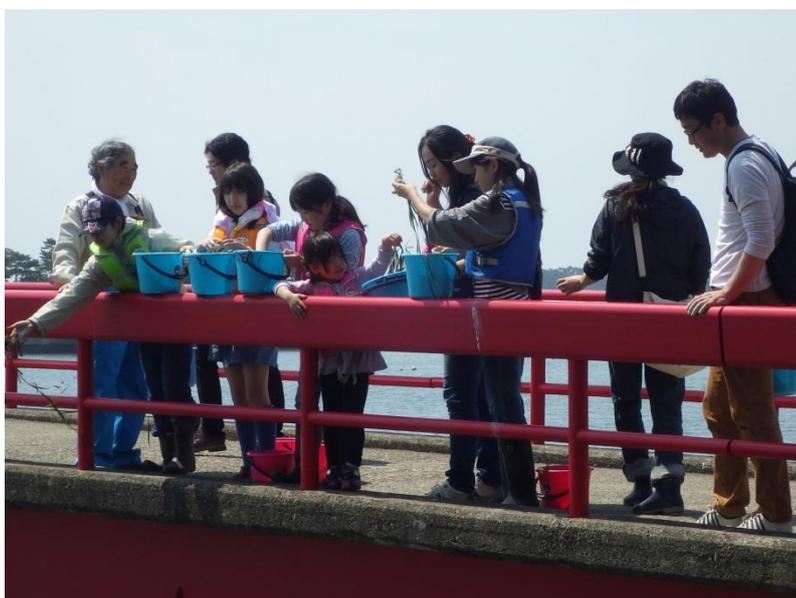
ダイバーが持っているものが『竹串に結びつけたアマモ』です。



『竹串に結びつけたアマモ』を1本1本ダイバーの手によって植栽します。

## 状況写真

## 解説



一方で、参加者による別の植栽活動も行いました。場所は松島観光名所の一つである福浦橋の橋上から行いました。

松島町のご厚意により、活動参加者の通行料を免除していただきました（植栽後、参加者は福浦島を観光させていただきました。）

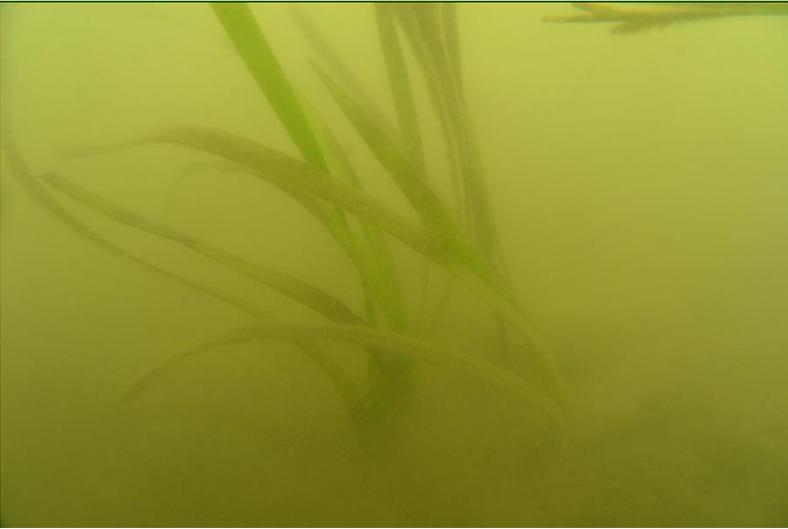
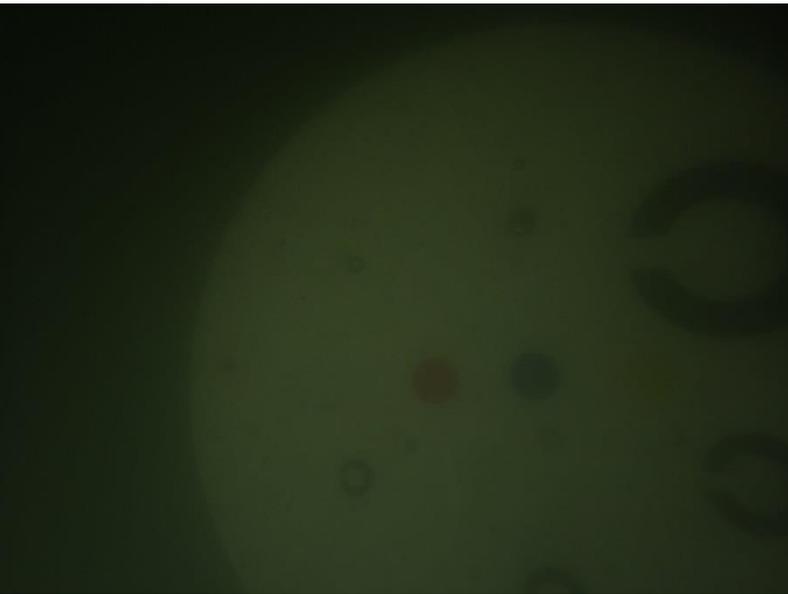


福浦橋の活動にも人だかりができ、興味をもった観光客が飛び入りで活動に参加をしました。

子供や観光客の目につく所においての環境活動を行うことには、とても大きな意味があると思います。



植栽した翌日、アマモ移植状況を確認するためにダイバーが水中写真を撮影しました。

状況写真	解説
	<p>表土が落ち着けば、自生株となんら変わりはありません。</p>
	<p>アマモの株の右側に見えるのが、固定用の竹串です。アマモが活着した後、自然になくなってしまいます。</p>
	<p>調査時においては水の濁りの度合いを数字で表します。今回、用いる濁り具合の指標は『水平透明度』といいます。</p> <p>今回の『水平透明度』は、左下のランドルト環（視力 0.5）が 30cm の距離で見えますので、  <math>0.5 \times 30 = 15</math>（水平透明度 15 度となります）</p>

## 松島湾アカモク増殖活動

状況写真	解説
	<p>アマモの植栽活動と同時にアカモクの増殖活動を行いました。アマモもアカモクも海の中に生える植物ですが、前者は『海草』の一種であり、後者は『海藻』と呼ばれます。どちらの種も津波の影響を受け生息地が減少してしまいました。</p>
	<p>松島周辺で取れたアカモクは商品として市場に出回っております。でも、乱獲されては環境に及ぼす影響を無視できません。そこで、漁協の方の協力を得ながら、アカモク増殖作戦を実施しました。</p>
	<p>一見目立たない作業ですが、バックから落ちた卵（アカモクの種のようなもの）が岩におち、着生します 我々はこの方法により多くの『アカモクの林』を創造してきました。これからもアカモク増殖活動を続けていきます。</p>